

2021年度事業報告書 及び附属明細書

自 2021(令和3)年4月 1日
至 2022(令和4)年3月31日

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2
公益財団法人 日 本 音 楽 財 団

目次

I	概要	1
II	公益目的事業「楽器の貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及」	2
	1. 楽器の保全	2
	2. 楽器の貸与	3
	3. 演奏会の開催	8
	4. 音楽文化振興・普及のための助成	13
	5. 広報活動	15
III	総務	20
	1. 役員の異動	20
	2. 理事会	20
	3. 評議員会	20
	4. 監事会	21
	5. 登記事項	21
	6. 主務大臣(内閣府)への届出等	21
	7. 外部監査の実施	21
	8. 広報活動「ランチタイムコンサート」	21
	9. 事務局	21
[巻末別紙]		
	1. 理事・監事・評議員名簿	22
	2. 委員名簿	23
	3. 保有楽器の概要	24
	4. 楽器名と被貸与者一覧	29

I 概 要

日本音楽財団は、1974年3月に音楽文化の振興と普及に寄与することを目的として設立され、2012年4月に公益財団法人に移行してからは、公益目的事業「楽器の貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及」の下に、1.楽器の保全、2.楽器の貸与、3.演奏会の開催、4.音楽文化振興・普及のための助成の4つの柱を置いて事業を推進している。

2022年3月末現在、世界最高クラスの弦楽器21挺(ストラディヴァリウス・ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ガールネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン2挺)を保有している。

本年度も世界規模での新型コロナウイルス感染症拡大により、事業実施には様々な困難が生じたため、新しい事業形態を模索しながらの実施となった。

すべての事業は、日本財団の助成金を受けて下記のとおり実施した。

1. 楽器の保全

(1) 楽器の保守管理

当財団の指定楽器商で定期保守を実施した。

(2) 楽器への保険の付保

万が一の事故に備え、保有する21挺の弦楽器には、日本の保険会社2社に保険を付保した。

(3) ATA カルネ

楽器を国外へ持ち出す際には、必ず海外の税関で免税扱いの一時輸入通関ができるATA カルネを携帯させている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により日本への入国が制限され、ATA カルネの有効期限(1年)内に日本への再輸入が困難な楽器が出たため、リプレースメントカルネによる一時輸入期間の延長や当財団から貸与楽器を取りに行き、日本へ再輸入することで対応した。

(4) 保有楽器の図録の送付

昨年度末に完成した当財団保有の弦楽器21挺についての楽器図録は、当財団の楽器保全及び楽器貸与事業を理解し、資料として活用していただくために国内外の図書館、音楽学校等に寄贈した。

2. 楽器の貸与

保有する21挺の楽器は、将来性が見込まれる若手演奏家等に無償で貸与している。被貸与者は世界的な新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの演奏活動となった。

3. 演奏会の開催

本年度は、①演奏会の定期開催、②全国のオーケストラとの共同事業、③音楽教育としての演奏会の開催の3つの柱の下に15公演を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により5公演が中止となった。実施した演奏会の一部は出演者を日本人被貸与者に変更することで開催できた。

4. 音楽文化振興・普及のための助成

事業運営委員会で10事業が採択されたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった事業が1件あり、本年度の助成は9事業となった。

Ⅱ 公益目的事業

「楽器の貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及」

1. 楽器の保全

(1) 楽器の保守管理

保有する21挺の楽器の修理、調整等については、ストラディヴァリウス等の名器の取扱いに慣れている楽器商を指定し実施しており、各被貸与者には、年4回の当財団指定楽器商での定期保守を義務付けている。修理費用は当財団が全て負担することで、楽器の修理・調整に関する記録を全て管理・保管し、楽器の状態把握に努めている。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症による移動制限や使用頻度の減少により、各楽器の定期保守は3回程度となった。

ワシントン条約・CITES(Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora:絶滅の恐れのある野生動植物の国際間取引規制条約)の規制により、特にアメリカ合衆国で通関ができない事例が発生しているため、当財団では全ての保有楽器に対して当財団の指定楽器商によりワシントン条約・CITES 適用除外証明書(Declaration of Materials)を発行し、被貸与者には楽器と共に常に携帯することを義務付けている。

保有する楽器は製作後約300年が経過し大規模な修理が必要なものが出てきていることから、これに対応するために特定費用準備資金(大規模楽器修理)を積み立てている。

(2) 楽器への保険の付保

楽器への保険については、楽器管理者として当財団が全額を支払っている。本年度も東京海上日動火災保険㈱と三井住友海上火災保険㈱の2社に楽器保険を付保した。

(3) ATA カルネ*

被貸与者等が保有楽器を国外へ持ち出す際には、ATA カルネを必ず携帯させ、ATA カルネを使用して通関できない国への楽器の持ち込みを禁止している。

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う世界的な渡航制限があったため、多くの演奏家はATA カルネの有効期限(1年)内に来日して更新することができなかった。そのため、各入国先の税関において再輸出期限の延長手続きをATA カルネ、またはリプレイスメントカルネを用いて行った。

なお、2021年12月に変異株出現に伴う入国制限により、当財団演奏会へ出演予定であった被貸与者が来日できず、ATA カルネの更新が困難となったため貸与を一時中断し、当財団から楽器を取りに行き再輸入することで対応した。

*「物品の一時輸入のための通関手帳に関する条約(ATA 条約)」に基づく一時免税通関手帳。国外へ一時的に物品を持ち込む場合、税関で手軽に「免税扱いの一時輸入通関」ができるほか、外国への輸入税の支払や保証金が不要となる。

(4) 保有楽器の図録の送付

昨年度末に完成した当財団保有の弦楽器21挺についての図録は、楽器保全及び楽器貸与事業を理解し、将来に向けて活用してもらうために、本年度、国内外の図書館、音楽学校、楽器製作者、音楽関連施設等に寄贈した。また、図録の寄贈先を当財団ホームペ

ージ上に掲載し、図録を閲覧するための情報提供を行った。これにより、多くの方に当財団が実施する事業について知ってもらう機会となった。

2. 楽器の貸与

当財団は保有する弦楽器を、国籍を問わず国際的に活躍する演奏家や若手有望演奏家は無償で貸与している。

楽器の貸与については、財団のホームページ等で応募方法を公表し貸与申請を受け付けている。楽器貸与先の選考は、欧・米・アジアの有識者で構成される諮問機関である楽器貸与委員会で毎年行っている。

楽器貸与委員会の審議対象外として、1997年よりベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールのヴァイオリン部門優勝者に次期コンクールまでの期間、ストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を副賞として貸与している。また、デビュー公演、周年記念公演、レコーディング等の具体的な演奏活動目的がある演奏家への満1年以内の貸与も行っている。

貸与区分、貸与期間、年齢制限などの申請条件等の詳細については、下記のとおり実施している。本年度も申請者から提出された書類及び動画は、楽器貸与委員による事前審査、楽器貸与委員会での討議を経て、新規の被貸与者を選定した。

なお、貸与期間の上限7年を超える被貸与者(旧長期貸与区分)については、演奏活動に支障が出ないように協議の上、楽器の返却時期を決定している。

区分	貸与期間	貸与楽器配分の目安	申請条件	貸与決定方法
A	満7年以内	保有楽器数の70%	申請年の9月1日時点で35歳以下の者 (クアルテットは、4名の平均が40歳以下)	楽器貸与委員会での選考を経て会長決裁
B	満3年以内	保有楽器数の15%	日本を拠点に演奏活動している者 申請年の9月1日時点で35歳以下の者 (クアルテットは、4名の平均が40歳以下)	
C	満1年以内	保有楽器数の10%	具体的な演奏活動の目的がある者 (例:デビュー公演・周年記念公演・レコーディング・コンクール等)	会長決裁
D	次期コンクール開催時まで	保有楽器数の5%	エリザベート王妃国際音楽コンクールヴァイオリン部門優勝者	

(1) 楽器貸与委員会

本年度は、下記のとおり実施した。

開催日	2021年10月12日(火)13:10~14:45
場所	日本財団ビル内2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
楽器貸与委員	巻末別紙2のとおり
財団保有楽器	巻末別紙3のとおり
審議事項	①新規貸与申請について ②現在の貸与状況について

会議結果

①新規貸与(ヴァイオリン 1名)

3名よりヴァイオリンの貸与申請があった。審議の結果、区分Aに1名(外村理沙に5年)の貸与が合意された。

②現被貸与者の貸与状況を説明し確認された。

(2)楽器の貸与状況

コロナ禍においての渡航制限によりATAカルネの更新のための来日が不可となり、貸与楽器を一時日本に戻した米国、韓国在住の被貸与者は、年度末現在5名となった。また、楽器返却期限が過ぎている欧州在住の被貸与者には、日本への渡航が可能になるまで貸与期間を延長する措置を取った。

各被貸与者から財団へ報告された公演数は、新型コロナウイルス感染症の影響により通常時より減少している。

本年度における保有楽器21挺の貸与状況は下記及び巻末別紙4のとおり。

①～④ Stradivarius “Paganini Quartet”

被貸与団体 Goldmund Quartet

①1680年製 Violin Pinchas Adt(ドイツ・ミュンヘン在住)

②1727年製 Violin Florian Schötz(ドイツ・ヴュルツブルク在住)

③1731年製 Viola Christoph Vandory(ドイツ・ミュンヘン在住)

④1736年製 Cello Raphael Paratore(ドイツ・ミュンヘン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計44回(聴衆約10,900名)

2019年度の楽器貸与委員会で貸与区分Aの被貸与団体として4年の貸与が合意され、2019年8月28日(うち3名は2019年9月27日)より当該楽器の貸与を開始した。2023年8月27日(うち3名は2023年9月26日)まで(貸与期間4年)貸与予定。当財団の演奏会(後述)に出演を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により演奏会が中止となった。

⑤ Stradivarius 1700年製 Violin “Dragonetti”

被貸与者 Veronika Eberle(ドイツ・ベルリン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計35回(聴衆約42,000名)

2009年5月11日より短期貸与を開始し、2009年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認された。2023年12月31日まで(貸与期間14年8ヶ月)貸与予定。

⑥ Stradivarius 1702年製 Violin “Lord Newlands”

被貸与者 Suyoen Kim(ドイツ・ベルリン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計41回(聴衆約40,000名)

2014年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2015年1月20日より貸与を開始した。2023年8月31日まで(貸与期間8年8ヶ月)貸与予定。

⑦ Stradivarius 1708年製 Violin “Huggins”

被貸与者 Stella Chen(アメリカ・ニューヨーク在住)

2019年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールの優勝者であり、副賞として2019年5月28日より次期コンクール開催2024年4月までの約5年(通常4年ごとの開催のコンクールだが新型コロナウイルスの影響により1年延期された)の貸与予定。コロナ禍のATAカルネ対応のため2020年9月に貸与を一時中断して日本へ楽器を戻し、当財団内で保管中である。

⑧ Stradivarius 1709年製 Violin “Engleman”

1) 被貸与者 Benjamin Beilman(アメリカ・ニューヨーク在住)

2016年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2016年12月7日より貸与を開始した。2023年12月6日まで(貸与期間7年)貸与予定。コロナ禍のATAカルネ対応のため、2020年9月に貸与を一時中断して日本に楽器を戻し、当財団内で保管中である。

2) 被貸与者 原田幸一郎(元東京クワルテット第1ヴァイオリン、東京在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計2回(聴衆約440名)

貸与期間 2021年10月12日～2022年2月24日(5ヶ月) 貸与区分C

(Benjamin Beilman への楽器貸与が中断している間)

主に桐朋学園音楽大学宗次音楽ホール開館記念公演のため

⑨ Stradivarius 1710年製 Violin “Camposelice”

被貸与者 Svetlin Roussev(ブルガリア・ルセ在住)

2012年1月15日よりStradivarius 1715年製 Violin “Joachim”を短期貸与したが、2012年2月8日に当該楽器に変更した。2012年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認された。2021年8月31日まで貸与であったが、世界規模での新型コロナウイルス感染症の影響により渡航が制限されているため、渡航制限が解除されるまで貸与を延長した。本年度末時点の貸与期間は10年3ヶ月となる。

⑩ Stradivarius 1714年製 Violin “Dolphin”

被貸与者 Ray Chen(アメリカ・フィラデルフィア在住)

同氏は2009年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、副賞として2009年6月2日から2010年9月8日までの間(貸与期間1年3ヶ月)Stradivarius 1708年製 Violin “Huggins”を貸与したが、他団体からも楽器貸与を受けていたため、その期間は楽器を返却した。その後、他団体からの貸与が終了したので、2012年4月11日よりStradivarius 1702年製 Violin “Lord Newlands”(貸与期間2年2ヶ月)、2014年6月19日よりStradivarius 1715年製 Violin “Joachim”(貸与期間5年4ヶ月)を貸与。2019年10月23日よりStradivarius 1735年製 Violin “Samazeuilh”を2022年8月31日まで(貸与期間計3年10ヶ月、通算貸与期間計11年7ヶ月)貸与予定であったが、コロナ禍のATAカルネ対応のため、2020年9月に貸与を一時中断した。その間の2021年12月に貸与楽器を当該楽器に変更したが、コロナ禍の渡航規制のため本年度末現在においても貸与を中断している。

⑪ Stradivarius 1715年製 Violin “Joachim”

被貸与者 Angelo Xiang Yu(アメリカ・ボストン在住)

2019年度の楽器貸与委員会で貸与区分Aの被貸与者として7年の貸与が合意され、当該楽器を2019年11月1日より貸与した。2026年10月31日まで(貸与期間7

年)貸与予定。コロナ禍のATAカルネ対応のため、2020年9月に貸与を一時中断して日本に楽器を戻し、当財団内で保管中である。

⑫ Stradivarius 1716 年製 Violin “Booth”

1) 被貸与者 Arabella Miho Steinbacher (ドイツ・ミュンヘン在住)

2005年5月6日よりStradivarius 1736年製 Violin “Muntz”を短期貸与していたが、2005年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2006年9月4日より当該楽器に変更した。2021年6月15日で貸与が終了した。(貸与期間14年10ヶ月、通算期間計16年2ヶ月)

2) 被貸与者 吉田 南(アメリカ・ボストン、東京在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計16回(聴衆約6,900名)

2020年度の楽器貸与委員会にて貸与区分Bとして3年の貸与が合意された。2021年8月10日に貸与を開始し、2024年8月9日まで貸与予定。当財団の演奏会(後述)に出演した。

⑬ Stradivarius 1717 年製 Violin “Sasserno”

被貸与者 Ji Young Lim(韓国・ソウル在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計10回(聴衆約7,200名)

同氏は2015年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールの優勝者であり、副賞としてStradivarius 1708年製 Violin “Huggins”を2015年6月2日より貸与(3年10ヶ月)していたが、引き続きの貸与の申請があり、2018年度の楽器貸与委員会で貸与区分Aの被貸与者として合意された。当該楽器を2019年3月28日より2022年6月1日まで(貸与期間3年2ヶ月、通算期間計7年)貸与予定。当財団の演奏会(後述)に出演を予定したが、コロナ禍での来日が困難なため出演を中止した。この来日時に予定していたATAカルネの更新ができなかったため、2022年1月に貸与を一時中断して日本に楽器を戻し、当財団内で保管中である。

⑭ Stradivarius 1722 年製 Violin “Jupiter”

1) 被貸与者 五嶋 龍(アメリカ・ニューヨーク在住)

2013年3月7日より短期貸与を開始し、2013年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2021年8月31日(貸与期間8年6ヶ月)で貸与が終了した。

2) 被貸与者 外村理沙(アメリカ・ニューヨーク、東京在住)

2021年度の楽器貸与委員会にて貸与区分Aとして5年の貸与が合意され、2022年1月12日より貸与を開始し、2027年1月11日まで貸与予定。

⑮ Stradivarius 1725 年製 Violin “Wilhelmj”

被貸与者 大谷康子(東京在住)

貸与期間 2020年2月1日～2022年3月31日(2年2ヶ月) 貸与区分C

演奏活動45周年記念演奏会のため

※貸与区分Cは1年以内の貸与であるが、新型コロナウイルス感染症の影響で予定した演奏会が延期されたこと及び当財団演奏会協力のため貸与を延長した

当該楽器を使用しての演奏 合計40回(聴衆約14,300名)

当財団の演奏会(後述)に出演した。

⑩ Stradivarius 1735 年製 Violin “Samazeuilh”

1) 被貸与者 Ray Chen (アメリカ・フィラデルフィア在住)

2009 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、副賞として 2009 年 6 月 2 日から 2010 年 9 月 8 日までの間 (貸与期間 1 年 3 ヶ月) Stradivarius 1708 年製 Violin “Huggins” を貸与した。

当該楽器を 2019 年 10 月 23 日より 2022 年 8 月 31 日まで (貸与期間計 3 年 10 ヶ月、通算貸与期間計 11 年 7 ヶ月) 貸与予定であったが、コロナ禍の ATA カルネ対応のため、貸与を 2020 年 9 月に一時中断して日本に楽器を戻し、当財団で保管中である。

※上記の理由で貸与を中断し当財団で保管している間、下記の演奏家の特別演奏会や CD 録音のため区分 C で貸与した。

2) 被貸与者 外村理沙 (東京在住)

貸与期間 2021 年 5 月 21 日～2021 年 8 月 9 日 (3 ヶ月) 貸与区分 C
日本での演奏会のため

当該楽器を使用しての演奏 合計 4 回 (聴衆約 3,000 名)

3) 被貸与者 柳田茄那子 (東京在住)

貸与期間 2021 年 8 月 10 日～2021 年 9 月 30 日 (2 ヶ月) 貸与区分 C
CD 録音のため

4) 被貸与者 池田菊衛 (元東京クワルテット第 2 ヴァイオリン、神奈川在住)

貸与期間 2021 年 10 月 6 日～2022 年 3 月 31 日 (6 ヶ月) 貸与区分 C
主に桐朋学園音楽大学宗次音楽ホール開館記念公演のため

当該楽器を使用しての演奏 合計 3 回 (聴衆約 600 名)

⑪ Stradivarius 1736 年製 Violin “Muntz”

被貸与者 Yuki Manuela Janke (ドイツ・ハゼルバツハタール在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 10 回 (聴衆約 1,300 名)

2007 年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2007 年 11 月 2 日より貸与を開始した。2021 年 2 月 5 日まで貸与予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航が制限されているため、渡航制限が解除されるまで貸与を延長した。2022 年 3 月末時点の貸与期間は 14 年 5 ヶ月となる。

⑫ Stradivarius 1696 年製 Cello “Lord Aylesford”

被貸与者 Pablo Ferrández (スペイン・トレドネス在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 33 回 (聴衆約 1,429,700 名: オンライン配信含)

2013 年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2014 年 1 月 17 日より貸与を開始した。2024 年 7 月 31 日まで (貸与期間 10 年 7 ヶ月) 貸与予定。当財団の演奏会に出演を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響により来日が困難となり出演が中止となった。本年度に当該楽器での録音を行っているが CD リリースは次年度になる予定。

⑬ Stradivarius 1730 年製 Cello “Feuermann”

被貸与者 Camille Thomas (フランス・パリ在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 34 回 (聴衆約 25,700 名: オンライン配信含)

2019年9月24日より貸与区分Cで当該楽器を貸与、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、貸与を6ヶ月間延長した。2020年度楽器貸与委員会において、貸与区分Aの被貸与者として、区分Cでの貸与期間終了後から2年の貸与が合意された。2021年3月24日から2023年3月23日まで(貸与期間2年、通算貸与期間計3年6ヶ月)貸与予定。

⑳ Guarneri del Gesu 1736年製 Violin “Muntz”

被貸与者 María Dueñas(オーストリア・ウィーン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計7回(聴衆約176,000名:オンライン配信含)

2019年7月12日より貸与区分Cで貸与中であつたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し貸与期間を6ヶ月間延長した。2020年度楽器貸与委員会において貸与区分Aの被貸与者として、区分Cでの貸与終了後から4年の貸与が合意された。2021年1月12日より2025年1月11日まで(4年、通算貸与期間計5年6ヶ月)の貸与予定。2021年5月に開催されたユーディ・メニューイン国際コンクールで当該楽器を使用して優勝した。

㉑ Guarneri del Gesu 1740年製 Violin “Ysaye”

被貸与者 Sergey Khachatryan(ドイツ・エッシュボルン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計16回(聴衆約13,700名)

同氏は2005年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2005年5月31日より2009年4月7日までStradivarius 1708年製 Violin “Huggins”を貸与(3年10ヶ月)した。引き続きの貸与の申請があり、Stradivarius 1702年製 Violin “Lord Newlands”を2009年4月7日より貸与。その後、2010年10月27日より当該楽器へ変更し2020年12月31日まで貸与予定であつたが、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航が制限されているため、渡航制限が解除されるまで貸与を延長した。2022年3月末時点での貸与期間は11年5ヶ月、通算貸与期間16年10ヶ月となる。本年度に当該楽器を使用してYsayeの曲を全曲録音した。CD等のリリースは次年度以降となる。

3. 演奏会の開催

当財団楽器の被貸与者による演奏会(15公演)を下記のとおり計画したが新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け5公演が中止、2公演が協力中止となり8公演の実施となった。

① 演奏会の定期開催(5公演計画:うち1公演実施、4公演中止)

演奏会の集客力を高めるための有効な方法の一つとして、演奏会の定期開催を2017年度より開始した。

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で被貸与者の来日が困難となり、4公演が中止となった。

(1) 浦安市との共同コンサート(日程及び出演者を変更し実施)

2016年12月に浦安市と当財団間で双方が保有する音楽資源を有効に活用し、共同でコンサートを実施する協定を締結し、2017年度より演奏会を定期的で開催してきており、本年度で5回目となった。

名 称	ストラディヴァリウス・デュオ・コンサート 浦安市・日本音楽財団 ストラディヴァリウス・シリーズ Vol.5
日 程	2022年1月24日(月) 19:00 開演
会 場	J:COM 浦安音楽ホール(千葉県浦安市) (303 席)
主 催	(公財)日本音楽財団、浦安市
共 催	J:COM 浦安音楽ホール
助 成	(公財)日本財団
出 演	吉田 南※ Stradivarius 1716 年製 Violin “Booth”使用 大谷康子※ Stradivarius 1725 年製 Violin “Wilhelmj”使用 福岡洸太郎 ピアノ
曲 目	J.M.ルクレール:2つのヴァイオリンのためのソナタホ短調作品 3-5 C.フランク:ヴァイオリン・ソナタイ長調 J.ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番ニ短調作品 108 D.ショスタコーヴィチ:2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品
入 場 料	市民優先 4,000 円、一般 5,000 円
来場者数	145 名(招待 11 名含)(コロナ禍で会場の 50%入場制限実施)
寄 付 額	660,000 円(チケット売上全額) (チケット売上:市民優先 4,000 円×80 枚、一般 5,000 円×68 枚)
寄 付 先	浦安市の「浦安市文化芸術振興基金」に積立てられ、市民の文化芸術活動の普及振興に使われる。

※当初の事業計画では Pablo Ferrández (Stradivarius 1696 Cello “Lord Aylesford”) の出演を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う入国後の 14 日間隔離が日程上難しいことから Stella Chen (Stradivarius 1708 Violin “Huggins”) と吉田南のデュオに変更。その後、新型コロナウイルスのオミクロン変異株に対する水際対策強化による在外演奏家の招へい中止に伴い大谷康子が Stella Chen を代演した。

(2)～(5)小規模編成のストラディヴァリウス・コンサート 2021 (4 公演中止)

英語表題「Encounter with Stradivari 2021」

当財団は、保有するストラディヴァリウス 10 挺以上を使用する「ストラディヴァリウス・コンサート」を 4 年に一度開催している。その間の 3 年は、ストラディヴァリウス数挺を使用しての小規模編成の「ストラディヴァリウス・コンサート」を定期開催している。「ストラディヴァリウス・コンサート」の名のもと名器の音色と質の高いクラシック音楽を披露し、各開催地におけるクラシック音楽の振興・普及に寄与すると共に、当財団の事業を広く周知広報することに努めている。

本年度は大阪、東京、鳥取公演を予定していたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、出演を予定していた演奏家の渡航の見通しが立たなかったことから、開催を中止した。

中止となった公演の詳細は下記とおり

出 演	Goldmund Quartet	Stradivarius “Paganini Quartet”被貸与団体
	Florian Schötz	Stradivarius 1727 年製 Violin “Paganini”
	Pinchas Adt	Stradivarius 1680 年製 Violin “Paganini”
	Christoph Vandory	Stradivarius 1731 年製 Viola “Paganini”
	Raphael Paratore	Stradivarius 1736 年製 Cello “Paganini”

(2) 大阪公演(中止)

日 程	2021 年 9 月 6 日(月) 19:00 開演
会 場	住友生命いずみホール (821 席)(大阪府大阪市)
主 催	(公財)日本音楽財団 住友生命いずみホール[(一財)住友生命福祉文化財団]
助 成	(公財)日本財団

(3) (4) 東京公演(中止)

日 程	2021 年 9 月 9 日(木)、9 月 10 日(金) 19:00 開演
会 場	サントリーホール ブルーローズ (432 席)(東京都港区)
主 催	(公財)日本音楽財団、 (公財)サントリー芸術文化財団サントリーホール
助 成	(公財)日本財団

(5) 鳥取公演(中止)

日 程	2021 年 9 月 11 日(土) 18:00 開演
会 場	とりぎん文化会館 梨花ホール (1620 席)(鳥取県鳥取市)
主 催	(公財)日本音楽財団、(公財)鳥取県文化振興財団
助 成	(公財)日本財団

② 全国のオーケストラとの共同事業

(6 公演計画:うち 4 公演代演で実施、2 公演中止)

2020 年度より(公社)日本オーケストラ連盟(正会員:25 団体、準会員:13 団体)との共同事業として、全国のオーケストラの主催する公演に当財団楽器の被貸与者がソリストとして出演協力している。本年度は 2021 年 12 月からの変異株に対する水際対策のために海外在住の被貸与者が来日できず日本人被貸与者の代演や一部協力中止(2 公演)となった。

本事業を通じて双方が保有する音楽資源を有効に活用し、当財団の楽器の被貸与者及び各楽団のレベル向上につながり、また、実施した 4 公演に学生計 79 名を招待することにより、若者がクラシック音楽に触れる機会を提供し、次世代の音楽文化の担い手の育成にも貢献した。

実録 CD を作成し、関係者へ配布することで当財団の事業の周知広報に努めた。

(6) (7) 山形交響楽団との共演(代演で実施)

日 程	2022 年 1 月 15 日(土)19:00 開演、16 日(日)15:00 開演
会 場	山形テルサ大ホール(806 席)(山形県山形市)
主 催	(公社)山形交響楽協会

協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
指 揮 下野竜也
出 演 吉田 南※ Stradivarius 1716 Violin “Booth”使用
※Stella Chen(Stradivarius 1708 Violin “Huggins”)の代演
演奏曲 メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲
来場者数 1/15 約 420 名(うち学生招待 26 名)
1/16 約 610 名(うち学生招待 14 名)

(8) 東京ニューシティ管弦楽団との共演(代演で実施)

日 程 2022 年 1 月 23 日(日)14:00 開演
会 場 東京芸術劇場 (1,999 席)(東京都豊島区)
主 催 (一社)東京ニューシティ管弦楽団
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
指 揮 曾我大介
出 演 吉田 南※ Stradivarius 1716 Violin “Booth”使用
※Ji Young Lim(Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”)の代演
演奏曲 ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲
来場者数 約 360 名(うち学生招待 14 名)

(9) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団との共演(代演で実施)

日 程 2022 年 2 月 5 日(土)14:00 開演
会 場 神奈川県民ホール (2,493 席)(神奈川県横浜市)
主 催 (公財)神奈川フィルハーモニー管弦楽団
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
指 揮 大植英次
出 演 吉田 南※ Stradivarius 1716 Violin “Booth”使用
※Ji Young Lim(Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”)の代演
演奏曲 ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第 1 番
来場者数 約 670 名(うち学生招待 25 名)

(10)(11) 新日本フィルハーモニー交響楽団との共演(2 公演協力中止)

(10) 日 程 2022 年 1 月 27 日(木)19:00 開演
会 場 サントリーホール大ホール (2,006 席)(東京都港区)
主 催 (公財)新日本フィルハーモニー交響楽団
(11) 日 程 2022 年 1 月 28 日(金)19:00 開演
会 場 すみだトリフォニーホール大ホール (1,801 席)(東京都墨田区)
主 催 (公財)新日本フィルハーモニー交響楽団

③ 音楽教育としての演奏会の開催(3 公演のうち 2 公演実施、1 公演中止)

青少年がクラシック音楽を楽しく学び親しむきっかけ作りとして、各地の学校の協力のもと、当財団の楽器被貸与者によるトークと演奏を交えた演奏会を開催した。開催地のジュニアオーケストラとの共演を含む1公演はコロナ禍で中止となった。クラシック音楽における新しいファン層の拡大を図ることを目的として本年度の対象は主に小学生とした。

(12) 鳥取県との共同事業 青少年のためのヴァイオリンコンサート(北栄町・琴浦町公演)

日 時 2021年11月18日(木)14:00 開演
会 場 大栄農村環境改善センター(404席)(鳥取県北栄町)
主 催 (公財)鳥取県文化振興財団、(公財)日本音楽財団
共 催 北栄町、琴浦町、北栄町教育委員会、琴浦町教育委員会
助 成 (公財)日本財団
出 演 大谷康子 Stradivarius 1725 Violin “Wilhelmj”使用
松本和将 ピアノ
曲 目 ゴセック:ガヴオット
ベートーヴェン:メヌエット
サン=サーンス:白鳥
喜びと悲しみの表現についてトーク
クライスラー:美しきロスマリン
ベートーヴェン:エリーゼのために
来場者数 220名(コロナ禍で会場の50%の入場制限実施)
(北条小学校4年生、大栄小学校6年生、八橋小学校4・5年生、
船上小学校5年生、関係者)

(13) 鳥取県との共同事業 青少年のためのヴァイオリンコンサート(日南町公演)

日 時 2021年11月19日(金)13:30 開演
会 場 日南町総合文化センターさつきホール(502席)(鳥取県日南町)
主 催 (公財)鳥取県文化振興財団、(公財)日本音楽財団
共 催 日南町、日南町教育委員会
助 成 (公財)日本財団
出 演 大谷康子 Stradivarius 1725 Violin “Wilhelmj”使用
松本和将 ピアノ
曲 目 (12)と同じ
来場者数 124名(コロナ禍で会場の50%の入場制限実施)
(日南小学校全児童1~6年生)

(14) 北九州市との共同事業:子どもの未来をひらくヴァイオリンコンサート(中止)

日 時 2022年2月27日(日)14:00 開演
会 場 黒崎ひびしんホール(826席)(福岡県北九州市)
主 催 北九州市、(株)黒崎コミュニティサービス、(公財)日本音楽財団
助 成 (公財)日本財団
後 援 北九州市教育委員会
出 演 大谷康子 Stradivarius 1725 Violin “Wilhelmj”貸与

松本和将 ピアノ
北九州市ジュニアオーケストラ
吉浦勝喜 指揮

④(追加事業)インターネット配信を目的とした収録演奏会

演奏映像を配信するために演奏会を収録した。また、実録 CD を作成し関係者に配布することで、当財団が実施する事業の周知広報に活用した。

(15) 吉田南&福間洸太朗・デュオ・コンサート

日 程 2022年1月19日(水) 18:30 開演
会 場 サントリーホール ブルーローズ (380席)(東京)
主 催 (公財)日本音楽財団
助 成 (公財)日本財団
出 演 吉田 南 Stradivarius 1716年製 Violin “Booth”使用
 福間洸太朗 ピアノ
曲 目 モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K304
 J.ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番ニ短調作品108
 C.フランク:ヴァイオリン・ソナタ イ長調
来場者 約70名(限定招待)

4. 音楽文化振興・普及のための助成

「弦楽器演奏における音楽的、技術的向上に資する事業」、「より多くの人々に優れた弦楽器演奏を鑑賞する機会を提供する事業」を対象として公募し、有識者で構成される事業運営委員会において、若手弦楽器奏者育成、公益性、運営力、創造性、緊要度の5つの要件から総合的に判断して助成先を選定した。年度初めに実施される事業にも対応できるように、前年度中に委員会を開催している。

2021年度事業運営委員会

開 催 日 2021年3月3日(水)14:00~16:30
場 所 日本音楽財団内会議室
事業運営委員 巻末別紙2のとおり

事業運営委員会では10事業が採択された。新型コロナウイルス感染症の影響を受け10事業中1事業が中止となり、本年度の助成は9事業に対し、5,300,000円となった。

詳細(開催日順)は下記のとおり。

(1) 弦楽ピアノ室内楽収録プロジェクト vol.2

実施団体 コンサートソン事務局 (一部内容を変更して実施)
日 程 2021年5月29日(土)~2022年3月31日(木)
会 場 国分寺市立いずみホール、東京都武蔵野市 THC スタジ(東京)
助成額 700,000円

(2) Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2021-22(第1回~第4回)

- 実施団体 一般社団法人 Music Dialogue (一部内容を変更して実施)
- 日 程 ①2021年5月25日(火)公開リハーサル、2021年5月28日(金)本番
 ②2021年8月31日(火)公開リハーサル、2021年9月3日(金)本番
 ③2021年12月14日(火)公開リハーサル、2021年12月17日(金)本番
 ④2022年2月28日(月)公開リハーサル、2022年3月4日(金)本番
- 会 場 中目黒 GT プラザホール(公開リハーサル)
 加賀町ホール、めぐろパーシモンホール小ホール(本公演)
- 助成額 1,000,000 円
- (3) 葵トリオリサイタル
- 実施団体 コンサート倶楽部ゆざわ
- 日 程 2021年6月6日(日)
- 会 場 雄勝文化会館(秋田)
- 助成額 400,000 円
- (4) 仙台銀行ホール イズミティ 21 コンサートシリーズ イズミノオト
- 実施団体 公益財団法人仙台市市民文化事業団
- 日 程 ①2021年7月3日(土)
 ②2021年11月28日(日)
 ③2022年2月27日(日)
- 会 場 仙台銀行ホールイズミティ 21 小ホール(宮城)
- 助成額 500,000 円
- (5) ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーによる室内楽演奏会
- 実施団体 ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーによる室内楽団
 (一部内容を変更して実施)
- 日 程 2021年7月27日(火)
- 会 場 Hakuju Hall(東京)
- 助成額 750,000 円
- (6) 東京ジュニアオーケストラソサエティ 第21回定期演奏会
- 実施団体 特定非営利活動法人東京ジュニアオーケストラソサエティ
- 日 程 2021年8月24日(火)
- 会 場 大田区民ホール・アプリコ大ホール(東京)
- 助成額 700,000 円
- (7) アンサンブル・ファルケ 爆奏! 新感覚公演 Vol.2
- 実施団体 アンサンブル・ファルケ (一部内容を変更して実施)
- 日 程 2021年9月26日(日)
- 会 場 西南コミュニティセンター(福岡)
- 助成額 250,000 円
- (8) 第6回みやこじま青少年国際音楽祭
- 実施団体 みやこじま青少年国際音楽祭実行委員会
- 日 程 2021年12月12日(日)
- 会 場 マティダ市民劇場(沖縄県宮古島)

助成額 300,000 円

(9) オークストラの日 2022 (一部内容を変更して実施)

実施団体 公益社団法人日本オーケストラ連盟

日程 2022年3月31日(木)

会場 東京文化会館小ホール(東京)

助成額 700,000 円

以下1団体はコロナ禍で実施が困難となり中止となった。

(1) ウェールズ弦楽四重奏団ドイツツアー演奏会

実施団体 ウェールズ弦楽四重奏団

以下3事業は前年度からコロナ禍のため延長となったが、下記のとおり実施され予定額を助成した。

(1) 延岡フィルハーモニー管弦楽団 《楽団創立30周年記念公演》

実施団体 延岡フィルハーモニー管弦楽団

日程 2021年6月19日(土)

会場 延岡総合文化センター(宮崎)

助成額 500,000 円

(2) ゼフィルス・ピアノ五重奏団第2回定期演奏会

実施団体 ゼフィルス・ピアノ五重奏団

日程 2021年7月27日(火)

会場 東京文化会館小ホール(東京)

助成額 500,000 円

(3) 真夏の夜のコンサート～金木博幸と素敵な仲間たち～

実施団体 飛騨音楽の里(旧団体名:飛騨かわいチェロ・リサイタル実行委員会)

日程 2021年8月20日(金)

会場 飛騨市文化交流センター スピリットガーデンホール(岐阜)

助成額 200,000 円

5. 広報活動

当財団の活動を広く周知するため、以下のような広報活動を展開している。

- (1) 財団パンフレット(日英併記)を作成し、関係する演奏会の会場などで広く一般に配布している。
- (2) ホームページや SNS(日英併記)にて、財団の事業活動全般について紹介している。
- (3) 財団主催演奏会の CD や動画を制作し、国内外の音楽関係機関、オピニオンリーダー等に配布、または演奏会動画を当財団 YouTube サイト等で配信している。本年度作成した CD 及び動画配信等は、以下のとおり。
 - ① 「吉田南&福間洸太郎デュオ・コンサート」動画配信及び実録 CD を制作

(2022年1月19日東京収録)

- ② 日本音楽財団・日本オーケストラ連盟共同事業「吉田南協奏曲集」を制作
(2022年1月15日&16日山形、1月23日東京、2月5日神奈川収録)
- (4) 楽器被貸与者との間で締結している貸与契約書に以下の内容を明記し、当財団が実施する事業の周知・広報に協力を得ている。
 - ① 被貸与者は、報道機関のインタビューや演奏会プログラムにおいて、貸与楽器の名称並びに当該楽器が当財団から貸与されていること的事实を周知・広報する。
 - ② 貸与楽器による演奏が、CD、動画等の形で制作されるときは、被貸与者は、貸与楽器の名称並びに当該楽器が当財団から貸与されていること的事实を当該制作物に明確に表示する。
 - ③ 被貸与者は、年に1度、3月末日までに前年4月からの演奏会(開催日、開催場所、演奏曲目、入場者数等)、CD、動画等制作に関する活動内容報告書を当財団に提出する。

本年度中に被貸与者が貸与楽器を使用して録音を行っているが、CDリリースは次年度以降となるため、本年度中の貸与楽器を使つてのCDリリースはなかった。

- (5) 音楽専門衛星デジタルラジオ「ミュージックバード」の協力を得て当財団の主催演奏会の実録CDの音源を放送し、不特定多数の人々にストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでもらい、当財団が実施する事業の周知・広報を図っている。特に普段ストラディヴァリウスの演奏に触れる機会のない地方のクラシック音楽ファンには、大変喜ばれているとの報告を受けている。従来から放送協力していたが、当財団専用の番組「ストラディヴァリウス・コンサート」として、2019年7月よりスタートした。演奏会に近いストラディヴァリウスの音色を届けるため、可能な限り高音質な音源を提供している。

本年度における放送内容は下記のとおりである。

- 1) 放送日:2021年4月11日(日)、4月17日(土)(再放送)

- ・「有希・マヌエラヤンケ ヴァイオリン・リサイタル」

- (浜離宮朝日ホール 2008年2月12日収録)

- ・「有希・マヌエラヤンケ ヴァイオリン・リサイタル」

- (浜離宮朝日ホール 2013年10月3日収録)

- 2) 放送日:2021年5月2日(日)、5月8日(土)(再放送)

- 「エンカウンター・ウィズ・ストラディヴァリ」

- (ザルツブルク大学講堂 2005年10月11日収録)

- 3) 放送日:2021年5月9日(日)、5月15日(土)(再放送)

- 「エンカウンター・ウィズ・ストラディヴァリ 2007」

- (キャッスルトン シアターファーム 2007年10月7日収録)

- 4) 放送日:2021年5月16日(日)、5月22日(土)(再放送)

- 「大谷康子 ヴァイオリン・リサイタル」

- (浦安音楽ホール 2020年11月3日収録)
- 5) 放送日:2021年6月6日(日)、6月12日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウスの響き」
(読売大手町ホール 2014年6月24日収録)
- 6) 放送日:2021年6月13日(日)、6月19日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウスの響き」
(サントリーホール 2014年6月25日収録)
- 7) 放送日:2021年7月4日(日)、7月10日(土)(再放送)
「7つのストラディヴァリウス・コンサート in スtockホルム」
(スウェーデン王宮内チャペル 2001年4月18日収録)
- 8) 放送日:2021年7月11日(日)、7月17日(土)(再放送)
「7つのストラディヴァリウス・コンサート in スtockホルム」
(スウェーデン王立アカデミーコンサートホール 2001年4月19日収録)
- 9) 放送日:2021年8月1日(日)、8月7日(土)(再放送)
・「オータム with 佐藤俊介」
(サントリーホールブルーローズ 2004年10月13日収録)
・「渡辺玲子ヴァイオリン リサイタル ストラド&デルジェスコンサート」
(浜離宮朝日ホール 2007年2月16日収録)
- 10) 放送日:2021年8月8日(日)、8月14日(土)(再放送)
「ストラド&デル・ジェス コン서트 2010」
(紀尾井ホール 2010年6月15日収録)
- 11) 放送日:2021年8月15日(日)、8月21日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウス&デル・ジェス チャリティコンサート 2011」
(北國新聞赤羽ホール 2011年1月29日収録)
- 12) 放送日:2021年9月5日(日)、9月11日(土)(再放送)
「オール・ストラディヴァリウスコンサート in 北京」
(北京保利劇場 2002年10月25日収録)
- 13) 放送日:2021年9月12日(日)、9月18日(土)(再放送)
「PAC ニューイヤー名曲コンサート ストラディヴァリウスの響き」
(兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール 2016年1月8日収録)
- 14) 放送日:2021年10月3日(日)、10月9日(土)(再放送)
「竹澤恭子&江口玲デュオ・リサイタル」
(王子ホール 2019年3月5日収録)
- 15) 放送日:2021年10月10日(日)、10月16日(土)(再放送)
「竹澤恭子&南紫音チャリティコンサート」
(福岡シンフォニーホール 2008年3月25日収録)
- 16) 放送日:2021年11月7日(日)、11月13日(土)(再放送)

- 「オール・ストラディヴァリウスコンサート」
(オペラシティコンサートホール 1998年9月8日収録)
- 17) 放送日:2021年11月14日(日)、11月20日(土)(再放送)
「エンカウンター・ウィズ・ストラディヴァリ 2012」
(サントリーホール 2012年9月10日収録)
- 18) 放送日:2021年12月5日(日)、12月11日(土)(再放送)
・「石坂団十郎&マルクス・シルマー デュオ コンサート」
(トッパンホール 2010年2月19日収録)
・「パブロ・フェランデス チェロ リサイタル」
(浜離宮朝日ホール 2014年12月11日収録)
- 19) 放送日:2021年12月12日(日)、12月18日(土)(再放送)
「名古屋フィルハーモニー交響楽団ストラディヴァリウス・シリーズ④、⑤、⑥」
(④日本特殊陶業市民会館フォレスト 2019年1月10日収録、
⑤愛知県芸術劇場コンサートホール 2019年2月22日収録、
⑥日本特殊陶業市民会館フォレスト 2019年3月13日収録)
- 20) 放送日:2022年1月9日(日)、1月15日(土)(再放送)
・「庄司紗矢香&佐藤俊介デュオリ サイタル」
(オペラシティホール 2007年9月10日収録)
・「ヴェロニカ・エーベルレ ヴァイオリン リサイタル」
(浜離宮朝日ホール 2013年7月17日収録)
- 21) 放送日:2022年1月16日(日)、1月22日(土)(再放送)
・「ストラディヴァリウス・チェロ・コンサート」
(紀尾井ホール 2004年4月22日収録)
・「スプリング・コンサート」
(浜離宮朝日ホール 2012年4月10日収録)
- 22) 放送日:2022年2月6日(日)、2月12日(土)(再放送)
・「リサ・バティアシュヴィリ ニューイヤー・コンサート」
(浜離宮朝日ホール 2004年1月27日収録)
・「スプリング・コンサート」
(サントリー小ホール 2006年4月21日収録)
- 23) 放送日:2022年2月13日(日)、2月19日(土)(再放送)
「エンカウンター・ウィズ・ストラディヴァリ 2009」
(ヘルムート・リスト・ハレ(オーストリア)2009年11月5日収録)
- 24) 放送日:2022年3月6日(日)、3月12日(土)(再放送)
「セルゲイ・ハチャトゥリアン ヴァイオリン リサイタル」
(浦安音楽ホール 2019年4月20日収録)
- 25) 放送日:2022年3月13日(日)、3月19日(土)(再放送)

「エイジ・オブ・ストラディヴァリウス第1夜」

(オペラシティコンサートホール 2003年11月26日収録)

- (6) 音楽雑誌、新聞、その他マスメディアの取材要請、財団保有楽器の写真提供要請に応え、財団の活動の周知・広報を図っている。

本年度における楽器貸与に係る主な掲載記事等の内容は以下のとおり。

- ① 「STRING」2021年7-8月号 被貸与者 María Dueñas インタビュー
- ② TV番組「なんでも鑑定団」への楽器写真提供
- ③ 雑誌「音楽の友」2022年3月号「吉田南&福間洸太郎デュオ コンサート」コンサートレビュー

Ⅲ 総 務

1. 役員の変動

斎藤邦彦理事が一身上の都合により2022年3月15日付で辞任した。
本年度末現在の理事・監事・評議員の名簿は巻末別紙1のとおりである。

2. 理事会

本年度は、理事会を下記のとおり2回開催した。

2021年度第1回理事会

開催日 2021年6月4日(金)14:00~15:00
場 所 日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
議決事項 第1号議案 2020年度事業報告及び収支決算について
第2号議案 諸規程の整備について
第3号議案 評議員会の招集について

2021年度第2回理事会

開催日 2022年3月4日(金)11:00~12:00
場 所 日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
議決事項 第1号議案 2022年度事業計画及び収支予算について
付帯決議案
事業計画の若干の字句の修正等は、会長に一任する
収支予算の金額の若干の変更及び科目間の流用は会長に一任する
第2号議案 定時評議員会の招集について

3. 評議員会

本年度は、評議員会を下記のとおり2回開催した。

2021年度定時評議員会(定款第20条に基づく決議の省略)

開催日 2021年6月22日(火)
議決事項 第1号議案 2020年度事業報告及び決算について

2021年度臨時評議員会

開催日 2022年3月4日(金)13:30~14:30
場 所 日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
議決事項 第1号議案 2022年度事業計画及び収支予算について
付帯決議案
事業計画の若干の字句の修正等は、会長に一任する

収支予算の金額の若干の変更及び科目間の流用は会長に一任する

4. 監事会

2020年度事業報告及び収支決算について監事監査を行った。

開催日 2021年6月2日(水)14:00～15:00

場所 日本音楽財団内会議室(東京都港区赤坂1-2-2)

5. 登記事項

2022年3月29日 理事の登記変更(1名削除)

6. 主務大臣(内閣府)への届出等

2021年6月30日 2020年度事業報告書及び収支決算書提出

2022年3月25日 2022年度事業計画書及び収支予算書届

2022年4月21日 理事の登記事項変更届(1名削除)

7. 外部監査の実施

永和監査法人に監査を委託し、期中監査を2022年3月17日に、期末監査を2022年4月27日、5月25日、26日に実施した。

8. 広報活動「ランチタイムコンサート」(中止)

「ランチタイムコンサート」(毎月第2、第4水曜日)は、当財団の事業を多くの人々に知ってもらおう広報活動の一環として2019年より実施しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本年度は開催を中止した。

プロを目指す若手演奏家の発表の場として、また、来場者には気軽に音楽に親しむ機会を提供する場として、次年度以降の開催に向けて準備している。

9. 事務局

事務所を東京都港区赤坂1-2-2日本財団ビル5階に置き、業務を遂行した。本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として在宅勤務を一部採用した。

年度末現在の事務局役職員数は常勤役員2名、常勤職員4名、契約職員1名、派遣職員1名 計8名であるが、うち1名が休業中(育児休業)である。

以上

別紙 1

公益財団法人日本音楽財団理事・監事・評議員名簿

(2022年3月31日現在、敬称略)

会 長	海老沢 勝二	(代表理事)
常務理事	加納 民夫	常勤 (業務執行理事)
理 事	石川 礼子	常勤 (業務執行理事)
理 事	海老澤 敏	国立音楽大学名誉教授
理 事	門 野 泉	清泉女子大学名誉教授 (公財)東京財団政策研究所理事長
理 事	福井 俊彦	元日本銀行総裁 (一財)キャノングローバル戦略研究所理事長
監 事	垣 見 隆	弁護士
監 事	吉村 貞彦	公認会計士
評議員	相川 直樹	慶應義塾大学名誉教授
評議員	荒蒔 康一郎	元キリンホールディングス(株)会長
評議員	尾形 武寿	(公財)日本財団理事長
評議員	清原 武彦	産経新聞社特別顧問
評議員	児玉 幸治	(一財)機械システム振興協会顧問
評議員	佐藤 隆文	元金融庁長官
評議員	白石 美雪	音楽学者、武蔵野美術大学教授
評議員	西村 朗	作曲家、東京音楽大学教授
評議員	畠山 向子	(公財)畠山記念館館長
評議員	藤井 宏昭	国際交流基金顧問

委員名簿

(2022年3月31日現在、敬称略)

楽器貸与委員 (欧州・米国・アジアの代表で構成)

委員長	原田 幸一郎	ヴァイオリニスト、桐朋学園大学教授、 東京音楽大学特任教授
委員長代行	イヴァン・デ・ラオノア Yvan de Launoit	ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール 副理事長
委員	池辺 晋一郎	作曲家、東京音楽大学名誉教授
委員	アイダ・カヴァフィアン Ida Kavafian	ヴァイオリニスト、ジュリアード音楽院教授、 カーティス音楽院教授
委員	キム・カシュカシヤン Kim Kashkashian	ヴィオリスト、ニューイングランド音楽院教授
委員	クライブ・ギリンソン Clive Gillinson	カーネギーホール総支配人兼芸術監督
委員	ジョナサン・ノット Jonathan Nott	指揮者
委員	藤原 真理	チェリスト

事業運営委員

委員長	川本 統脩	洗足学園音楽大学講師
委員	小倉 多美子	音楽ジャーナリスト、武蔵野音楽大学講師
委員	金子 建志	音楽評論家、東京理科大学講師
委員	柴田 俊一	音楽プロデューサー、元 NHK プロデューサー
委員	柴辻 純子	音楽評論家

日本音楽財団の保有楽器概要

(2022年3月31日現在)

Stradivarius "Paganini Quartet" 「パガニーニ・クアルテット」

1680年製 Violin 1727年製 Violin
1731年製 Viola 1736年製 Cello

アントニオ・ストラディヴァリ(1644～1737)製作による楽器で構成されたクアルテットは、世界で6セットの存在が知られている。このクアルテットはその一つであり、19世紀の伝説的なヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニ(1782～1840)が所有していたことでも有名である。

1994年4月に当財団はアメリカ・ワシントン D.C.のコーコラン美術館よりこのクアルテットを購入した。同美術館にこのクアルテットを寄贈した米国のアンナ・E・クラーク夫人の意志を受け継ぎ、当財団は4挺を常にセットとして四重奏団に貸与している。

Stradivarius 1700年製 Violin "Dragonetti" 「ドラゴネッティ」

このヴァイオリンはネックの部分までも製作当時のものが使用されているとても貴重な楽器である。著名なイタリアのコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ(1763～1846)によって大切に所有されていたことから現在この名前と呼ばれている。当財団の購入直前には、世界的に名の知られているヴァイオリン奏者、フランク・ペーター・ツィンマーマン(1965～)によって演奏されていた。

2002年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1702年製 Violin "Lord Newlands" 「ロード・ニューランズ」

イギリスのニューランズ卿(1825～1906)によって生涯大切にされていたため、現在この名前と呼ばれている。1964年から1982年にこの楽器を保管していたロンドンのヒル商会が、1973年に英国バースの古楽器名器展にて、当時のヒル商会を代表する楽器としてこのヴァイオリンを展示していた。楽器の保存状態が優れているだけでなく、その音質の良さでも知られており、以前このヴァイオリンを演奏したアイザック・スターン(1920～2001)は、自身が所有しているグアルネリ・デル・ジェストと同じパワーを感じると語ったという。

2002年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1708年製 Violin "Huggins" 「ハギンス」

このヴァイオリンは、1870年代後半にフランスからウィーンにもたらされ、1882年頃、イギリスの天文学者ウィリアム・ハギンス卿(1824～1910)が購入し、所有していたことから「ハギンス」と呼ばれている。色艶も鮮やかで保存状態に優れている。当財団は

1997年よりベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に副賞として次のコンクールまでこの楽器を貸与し、コンクールの発展と演奏家の技術向上に寄与している。

1995年3月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1709 年製 Violin "Engleman" 「エングルマン」

このヴァイオリンは、アメリカ海軍士官ヤング中佐が第二次世界大戦中に戦死するまで、約150年間ヤング家に大切に保管されていたため、保存状態が優れている。当財団が保有する以前は、アメリカのアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマンが所有していたため、現在はこの名前で親しまれている。

1996年12月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1710 年製 Violin "Camposelice" 「カンポセリーチェ」

このヴァイオリンは、1880年代にフランスのカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。1937年には、クレモナ古楽器名器展に当時この楽器を所有していたキューネ博士のコレクションとして展示された。当財団が購入する前は、30年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切に保管されていた。

2004年9月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1714 年製 Violin "Dolphin" 「ドルフィン」

1800年代後半にこの楽器を所有していたジョージ・ハートは、光沢の美しい裏板のニスと華麗な見栄えが、優美なイルカが光り輝いている様を思わせることから「ドルフィン」という名前を付けた。音色並びに楽器の保存状態が優れており、1715年製「アロード」、1716年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの三大名器の一つとされている。また、巨匠ヤツシャ・ハイフェッツ(1901～1987)が愛用していたことでも知られている。

2000年2月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1715 年製 Violin "Joachim" 「ヨアヒム」

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)が所有していたストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン3挺の内の1つである。また、ヨアヒムからヴァイオリンのレッスンを受けていた彼の兄弟の孫娘アディラ・ダラーニ(d'Aranyi)に遺贈されたことから「ヨアヒム=アラーニ」という名前でも知られている。当財団が購入するまでは、アディラの遺族によって代々受け継がれてきた。

2000年9月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1716 年製 Violin "Booth" 「ブース」

1855年頃にイギリスのブース夫人が所有していたため、現在の名が付けられている。彼女はヴァイオリンの才能を発揮した2人の息子たちのためにストラディヴァリウスのクアルテットを形成しようと試み、この楽器を購入した。1931年にアメリカの名高いヴァイオリン奏者ミッシェル・ミシヤコフ(1896～1981)の手にわたり、1961年にはニューヨークのヘンリー・ホッティンガー・コレクションの一部となった。音色の美しさ、音の力強さにおいて知名度が高く、保存状態も優れている。

1999年1月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1717 年製 Violin "Sasserno" 「サセルノ」

1845年からフランスのサセルノ伯爵が所有していたことからこの名前と呼ばれている。1894年には、イギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスの手に渡った。1906年にはイギリスのヘンリー・サマーズが所有し、それ以後93年間にわたり同家で大切に保管されてきたため、製作時のままのニスが多く残っており保存状態が非常に優れている。

1999年5月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1722 年製 Violin "Jupiter" 「ジュピター」

このヴァイオリンは、1800年頃にイギリスの収集家ジェームス・ゴディングによって「ジュピター」と名付けられたといわれている。この楽器は大切に使用されてきたため保存状態が素晴らしく、オリジナルのニスも全体に残っている。

1998年5月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1725 年製 Violin "Wilhelmj" 「ウィルヘルミ」

1866年以降、約30年間この楽器を所有していたドイツの著名なヴァイオリン奏者、アウグスト・ウィルヘルミ(1845～1908)に因んでこの名前が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者としてベストなうちに引退したい」との理由で、50代の若さで楽器を手放したという。

2001年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1735年製 Violin "Samazeuilh" 「サマズィユ」

この楽器は1836年、楽器商のタリシオによってイタリアからフランスへ持ち込まれ、一時リヨンのシャポネー伯爵が所有していた。しかし、19世紀の終わりにロンドンのヒル商会の手に渡り、1901年、ヴァイオリニストのアーサー・ハートマン(1881～1956)へ売却された。1903年にはサマズィユ家が購入し、所有していたことから「サマズィユ」と呼ばれている。1923年に楽器を所有することになったヴァイオリンの巨匠ミッシェル・エルマン(1891～1967)は「ストラディヴァリウスの中で最高の音色を持つ楽器の1つ」と1926年に手紙に記している。楽器の内側のラベルには91歳(製作者の年齢)と書か

れている。

2017年8月に当財団が岡本夫妻の寄付と日本財団からの助成を合わせて購入したものである。

Stradivarius 1736 年製 Violin "Muntz" 「ムンツ」

楽器の内側に貼られたラベルにはストラディヴァリ本人の手書きで「d'anni 92 (92歳)」と書かれている珍しい楽器である。透明な黄褐色のニスで楽器のほぼ全体に綺麗に残っており、楽器の保存状態も音色も格段に優れている。1872年以降、英国バーミンガムの有名な収集家でアマチュアのヴァイオリン奏者のH.M.ムンツが所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737年に死去したストラディヴァリが、最晩年に製作した楽器の一つとして知られている。

1997年7月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1696 年製 Cello "Lord Aylesford" 「ロード・アイレスフォード」

イギリスのアマチュア奏者アイレスフォード卿が1780年代初期にイタリアの名高い音楽家のフェリーチェ・デ・ジャルディーニ(1716～1796)から購入し、その後アイレスフォード家に約100年間所有されていたことからこの名前が付けられた。1946年にはアメリカ・フィラデルフィア在住の世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキー(1903～1976)の手に渡り、1950年から1965年には巨匠ヤーノシュ・シュタルケル(1924～2013)によって演奏会や35枚のレコーディングのために使用された。

2003年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1730 年製 Cello "Feuermann" 「フォイアマン」

アントニオ・ストラディヴァリが製作したうち、現存するチェロは、約50挺といわれている。「フォイアマン」は普通のチェロと比べ、楽器本体の部分が細長い点の特徴である。世界的に著名なチェロ奏者、エマヌエル・フォイアマン(1902～1942)が1939年から長年にわたり使用したことから、この名前と呼ばれている。エマヌエル・フォイアマンは、斎藤秀雄(1902～1974)の師として日本でもよく知られている。

1996年12月に当財団が購入したものである。

Guarneri del Gesu 1736 年製 Violin "Muntz" 「ムンツ」

アントニオ・ストラディヴァリと並び称される名工、バルトロメオ・ジュゼッペ・グアルネリ(グアルネリ・デル・ジェス)(1698～1744)が製作したヴァイオリン。1736年製のストラディヴァイオリンも所有していたイギリスのアマチュア奏者で収集家のムンツが一時期所有していたことから、この名前が親しまれている。

1995年3月に当財団が購入したものである。

Guarneri del Gesu 1740 年製 Violin "Ysaye" 「イザイ」

この楽器はベルギーの国家的ヴァイオリン奏者、ウジェーヌ・イザイ(1858～1931)が所有していたことからこの名前が付けられた。楽器の中に貼られた小さなラベルには赤いインクで「このデル・ジェスは私の生涯を通じて忠実なパートナーだった。イザイ1928」とフランス語で書かれ、イザイの国葬の際には棺の前をクッションに載せられ行進したことで知られている。1965年に巨匠アイザック・スターン(1920～2001)の所有となり生涯愛用した。

1998年3月に当財団が購入したものである。

以上、当財団はストラディヴァリウス・ヴァイオリン15挺、ストラディヴァリウス・チェロ3挺、ストラディヴァリウス・ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン2挺の合計21挺の弦楽器を保有している。

楽器名と被貸与者一覧

別紙 4

2022年3月31日現在

楽器名	被貸与者	備考
貸与区分A(貸与期間満7年以内)、B(貸与期間満3年以内)、貸与期間1年以上(旧長期貸与)		
	Stradivarius "Paganini Quartet"	Goldmund Quartet
1	1680年製 Violin "Paganini"	Pinchas Adt (Mr)
2	1727年製 Violin "Paganini"	Florian Schötz (Mr)
3	1731年製 Viola "Paganini"	Christoph Vandory (Mr)
4	1736年製 Cello "Paganini"	Raphael Paratore (Mr)
5	Stradivarius 1700年製 Violin "Dragonetti"	Veronika Eberle (Ms)
6	Stradivarius 1702年製 Violin "Lord Newlands"	Suyoen Kim (Ms)
7	Stradivarius 1709年製 Violin "Engleman"※	Benjamin Beilman (Mr)
8	Stradivarius 1710年製 Violin "Camposelice"	Svetlin Roussev (Mr)
9	Stradivarius 1714年製 Violin "Dolphin"※	Ray Chen (Mr)
10	Stradivarius 1715年製 Violin "Joachim"※	Angelo Xiang Yu (Mr)
11	Stradivarius 1716年製 Violin "Booth"	吉田 南 (Ms)
12	Stradivarius 1717年製 Violin "Sasserno"※	Ji Young Lim (Ms)
13	Stradivarius 1722年製 Violin "Jupiter"	外村理沙 (Ms)
14	Stradivarius 1736年製 Violin "Muntz"	Yuki Manuela Janke (Ms)
15	Stradivarius 1696年製 Cello "Lord Aylesford"	Pablo Ferrández (Mr)
16	Stradivarius 1730年製 Cello "Feuermann"	Camille Thomas (Ms)
17	Guarneri del Gesu 1736年製 Violin "Muntz"	María Dueñas (Ms)
18	Guarneri del Gesu 1740年製 Violin "Ysaye"	Sergey Khachatryan (Mr)
貸与区分C (貸与期間満1年以内)		
19	Stradivarius 1725年製 Violin "Wilhelmj"	貸与が終了し財団内で保管中
20	Stradivarius 1735年製 Violin "Samazeuilh"	〃
貸与区分D(ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者への次期コンクール開催までの貸与)		
21	Stradivarius 1708年製 Violin "Huggins"※	Stella Chen (Ms)

長期:区分A、B等18挺、短期:区分C2挺、コンクール:区分D 1挺 現在保有楽器 計21挺
 ※コロナ禍においてATAカルネの更新ができないため、一時貸与を中断し財団内で保管中

上記のとおり2021年度事業報告書及び附属明細書を提出いたします。

2022(令和4)年6月1日

公益財団法人 日本音楽財団

会 長 海 老 沢 勝 二

①

2021年度事業報告書及び附属明細書を監査した結果、適正かつ妥当であると認めます。

2022(令和4)年6月1日

監 事 垣 見 隆

①

監 事 吉 村 貞 彦

①